経営比較分析表

1. 経営の健全性・効率性

収益的収支比率については、100％を下回っており、使用料収入で維持管理費の全てを賄える。地方債償還金と併せて、一般会計からの繰入金で賄っている状況である。
　また、企業債残高対事業規模比率は類似団体と比較し、高いとなっているが、短期間（平成23年度から平成25年度）での類似団体の平均値が示されているため、今後は減少する見込みである。
　浄化槽設置世帯については、高齢者世帯が非常に多いため、浄化槽（5人槽）1基当たりの処理人口がほぼ1〜2人となっているため、施設利用率が低く、使用料収入も少なくなり、汚水処理原価は高くなっている。

2. 老朽化の状況

老朽化の状況は、平成18年度から生じており、本体の老朽化はまだ進んでいない。

分析欄

業種区分
業種名
事業名
類似団体区分

北海道
黒松内町

法適用外
下水道事業
特定地域生活排水施設
K3

資産不足比率（%）
自己資本構成比率（%）
普及率（%）
有効率（%）

該当数値なし
9.39
100.00
3,920
279
41.08
0.81

当該団体値（当該値）
類似団体平均値（平均値）

平成27年度全国平均

※ 法適用外と類似団体区分が示してあるが、収益的収支比率の類似団体平均値を表示していない。
※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管理効率率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。